

HP OpenView Smart Plug-in for BEA WebLogic Server

For the HP-UX and Solaris OpenView Operations Management Server

ソフトウェア バージョン : A.04.00

リファレンス

ご注意

保証について

Hewlett-Packard 社は、この文書に関して市場性および特殊目的への適合性の暗黙の保証を含む一切の保証を行わないものとします。Hewlett-Packard 社は、この文書内の欠陥に対して、およびこの文書の提供、実行、または使用に関連する直接損害、間接損害、実損害、偶発損害、および結果損害に対して責任を負わないものとします。

ご使用の Hewlett-Packard 製品に適用される個別の保証条項の複写は、お近くの営業所で入手できます。

法律上の権利の制限について

合衆国政府による使用、複製、および開示に関しては、国防総省機関については DFARS 252.227-7013 の「技術データおよびコンピュータソフトウェアにおける権利」条項の (c)(1)(ii) 項で定める制限事項がそれぞれ適用されます。

Hewlett-Packard Company
United States of America

その他の機関に対しては FAR 52.227-19 (c)(1) および (c)(2) で定める制限事項がそれぞれ適用されます。

著作権について

© Copyright 2001-05 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

当社の事前の書面による承諾なく、本書のコピー、改変、または別の言語への翻訳を行うことは禁じられています。この情報は予告なしに変更されることがあります。

商標について

Java™ は、Sun Microsystems の米国内での登録商標です。

その他の製品名は各社の商標またはサービス マークです。

サポート

次の HP OpenView Web サイトを参照してください。

<http://www.hp.com/managementsoftware/support> (英語)

<http://www.hp.com/jp/openview> (日本語)

HP OpenView で提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HP OpenView ソフトウェア サポート オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。サイトのサポート範囲は次のとおりです。

- マニュアル類の検索
- エンハンスメント要求 (英語)
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート ケースの登録とトラッキング
- サポート契約の管理
- HP サポートの連絡先の確認
- 利用可能なサービスの確認
- フォーラムへの参加
- ソフトウェア トレーニングの確認と登録

各種サポートのご利用の際は、ほとんどの場合、HP Passport ユーザーとしてご登録いただき、ログインしていただく必要があります。また、サポート契約も必要です。

アクセスレベルの詳細は、次の URL のサイトを参照してください。

http://www.hp.com/managementsoftware/access_level

HP Passport ID の登録は、次のサイトで行うことができます。

<http://www.managementsoftware.hp.com/passport-registration.html>

日本語マニュアルは、次の Web サイトで参照いただけます。

<http://www.hp.com/jp/manual>

目次

1 WebLogic Server のメトリック	7
メトリックの概要	7
メトリック概要シート：各列の項目	7
メトリック仕様の説明	12
メトリック B001_ServerStatus	14
メトリック B002_ServerStatusRep	15
メトリック B005_JVMMemUtilPct	16
メトリック B010_ExQueThruRate	18
メトリック B011_ExQThrdUtilPct	19
メトリック B012_ExQueWaitCnt	21
メトリック B013_SocketTrafficRt	22
メトリック B014_ActiveSocketCnt	23
メトリック B015_SrvrRestartsPct	24
メトリック B025_EJBFreePoolWtRt	25
メトリック B225_EJBFreePoolWaitRate	26
メトリック B026_EJBTimeoutRt	28
メトリック B226_EJBTimeoutRate	29
メトリック B035_EJBTranThruRt	30
メトリック B036_EJBTranRbRt	31
メトリック B238_EJBCacheHitPct	32
メトリック B240_ServletAveExecTime	33
メトリック B241_ServletTimeCnt	34
メトリック B242_ServletReqRate	35
メトリック B245_WebAppSessionCnt	36
メトリック B246_WebAppHitRt	37
メトリック B251_JMSUtilByMessagePct	38
メトリック B252_JMSUtilByBytePct	39
メトリック B253_JMSThreshByMessagePct	40
メトリック B254_JMSThreshByBytePct	41
メトリック B255_JMSServerThruMessageRt	42
メトリック B256_JMSServerThruByteRt	43
メトリック B260_JDBCConnectionPoolUtil	44
メトリック B061_JDBCConPIWtCnt	45
メトリック B262_JDBCConnectionPoolThruRt	46

メトリック B063_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRtSum	47
メトリック B263_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRt	48
メトリック B264_JDBCConnectionPoolFailures	49
メトリック B265_JDBCConnectionPoolAvgConnectionDelayTime	50
メトリック B070_TransAveTime	51
メトリック B270_ConnectorConnectionPoolUtil	52
メトリック B071_TransRollbackPct	53
メトリック B072_TransResErrRbPct	54
メトリック B073_TransAppErrRbPct	55
メトリック B074_TransTimErrRbPct	56
メトリック B075_TransSysErrRbPct	57
メトリック B076_TransThruRate	58
メトリック B077_TransHeurCnt	59
メトリック B078_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRateSum	61
メトリック B278_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRate	62
メトリック B079_TransCapacityUtil	63
メトリック B080_ClsOutMesFailRt	64
メトリック B081_ClsInMesFailRt	66
メトリック B281_XMLCacheDiskSize	68
メトリック B282_XMLCacheMemorySize	69
メトリック B283_DeferredRequestsCnt	70
メトリック B284_ReqWaitTimeForThread	71
メトリック B085_InvLoginAttCnt	72
メトリック B285_PendingReqCount	73
メトリック B286_PendingReqPct	74
メトリック B287_ReqMaxWaitTime	75
メトリック B288_StandbyThreadCount	76
メトリック B090_TimeSerExcepCnt	77
メトリック B091_TimeSerThruRt	78
メトリック B092_ExQueThroughput	79

2 WLS-SPI のログ ファイルと構成ファイルのテンプレート 81

WebLogic 構成ファイル	81
WLSSPI エラー ログ	81
WebLogic ログ テンプレート	82

1 WebLogic Server のメトリック

この章では、HP OpenView Smart Plug-in for BEA WebLogic Server (WLS-SPI) のメトリックの概要および詳細情報を表形式で示します。また、各メトリックの説明および関連情報も提供します。これらの情報は OVO で受信した WLS-SPI データを理解する上で役立ちます。また、本章はメトリックのカスタマイズに必要な情報も提供します。この章には以下のセクションがあります。

- メトリックの概要
- メトリックの詳細

メトリックの概要

WLS-SPI メトリック テンプレートには、WLS-SPI のセットアップ タスクを簡略化するために事前に定義された設定が含まれています。しかし、WLS-SPI を使用していくと、設定の一部をカスタマイズする必要がある場合があります。このセクションと次のセクションで、それらのカスタマイズに必要な基本的な情報を示します。

この章に含まれるすべてのメトリックは次のページ以降の表で容易に確認できます。メトリック概要表の後に、すべての WebLogic Server メトリックについて個々のメトリックの詳細を示し、使用可能な場合はそれらのモニター テンプレートの設定を示します。レポートまたはグラフの作成にのみ使用するメトリックにはモニター設定がないため、詳細情報の各項目に「なし」で示します。

メトリック概要シート：各列の項目

この概要リストを使用すれば、メトリックとその基本的な情報をすばやく見つけることができます。概要リストの後には、個々のメトリックの詳細情報を示します。これには、警告に使用するメトリックとそのメトリックに対応するモニター テンプレートの設定も含まれます。

メトリック番号	メトリックに割り当てられた番号 (例：25 = B025)。200 番台のメトリックは、WLS の一つのインスタンスを対象に値を収集するドリルダウン メトリックです (例：225 = B225)。
メトリック名	メトリックの略称 (例：EJBTranRbPct = EJB Transaction Rollback Percent [EJB トランザクションのロールバック割合])。
説明	収集されるメトリック値。
使用可能な WLS のバージョン	そのメトリックを使用できる WebLogic Server のバージョン。たとえば、バージョン 6.1、バージョン 7.0、バージョン 8.1、バージョン 9、またはすべてのバージョン (6.1、7.0、8.1 および 9)。WLS-SPI は、サービス パックがインストールされたバージョン 6.1 (バージョン 6.1 SP1 以降) のみをサポートします。
タイプ	そのメトリックを収集する目的。 A = 警告通知 R = Reporter のレポート作成 G = Reporter のグラフ作成
領域	そのメトリックが対象とする WebLogic Server の論理的な領域。

図 1 メトリックの概要 (1/4 ページ)

番号	メトリック名	説明	使用可能な WLS のバージョン	タイプ	重要度	領域
1	B001_ServerStatus	サーバーのステータス	すべて	A	危険域 注意域	可用性
2	B002_ServerStatusRep	サーバーのステータス - レポート作成	すべて	R		可用性
5	B005_JVMMemUtilPct	JVM で使用されるヒープ領域の割合	すべて	GA	危険域 重要警戒域	JVM
10	B010_ExQueThruRate	実行キューで 1 秒あたりに処理される要求の数	すべて	GR		パフォーマンス
11	B011_ExQThrdUtilPct	サーバーの実行キューに使用されているスレッドの割合	すべて	GRA	危険域 重要警戒域 警戒域	パフォーマンス
12	B012_ExQueWaitCnt	処理を待つクライアント要求の数	すべて	GA	警戒域	パフォーマンス
13	B013_SocketTrafficRt	1 秒あたりに開かれるソケット接続の数	すべて	G		パフォーマンス
14	B014_ActiveSocketCnt	オープンソケット接続の数	すべて	GA	警戒域	パフォーマンス
15	B015_SvrRestartsPct	許容可能な再起動の割合	7.0、 8.1、9	GA	危険域 注意域	パフォーマンス
25	B025_EJBFreePoolWtRt	フリー プールから EJB Bean を利用できなかった 1 分当たりの回数	すべて	GRA	注意域	EJB
225	B225_EJBFreePoolWaitRate	フリー プールから EJB Bean を利用できなかった 1 分当たりの回数 (ドリルダウン)	すべて	A	注意域	EJB
26	B026_EJBTimeoutRt	EJB bean の待機中にクライアントがタイムアウトした 1 分当たりの回数	すべて	GRA	注意域	EJB
226	B226_EJBTimeoutRate	EJB bean の待機中にクライアントがタイムアウトした 1 分当たりの回数 (ドリルダウン)	すべて	A	注意域	EJB
35	B035_EJBTranThruRt	1 秒あたりの EJB トランザクションの数	すべて	GRA	注意域	EJB
36	B036_EJBTranRbRt	1 秒あたりにロールバックされた EJB トランザクションの数	すべて	GRA	注意域	EJB
238	B238_EJBCacheHitPct	使用中のキャッシュ内の EJB トランザクションの割合	すべて	RA	注意域	EJB

図 2 メトリックの概要 (2/4 ページ)

番号	メトリック名	説明	使用可能な WLS のバージョン			
			タイプ	重要度	領域	
240	B240_ServletAveExecTime	サーブレットの平均実行時間 (ミリ秒)	すべて	RA	注意域	サーブレット
241	B241_ServletTimeCnt	サーブレットで使用された時間	すべて	R		サーブレット
242	B242_ServletReqRate	1 秒あたりのサーブレットの要求数	すべて	RA	注意域	サーブレット
245	B245_WebAppSessionCnt	Web アプリケーションのオープン セッションの数	すべて	RA	注意域	Web アプリケーション
246	B246_WebAppHitRt	Web アプリケーションが実行している 1 秒あたりのオープン セッションの数	すべて	R		Web アプリケーション
251	B251_JMSUtilByMessagePct	一杯になった JMS サーバーの割合 (メッセージ数ベース)	すべて	RA	危険域 重要警戒	JMS
252	B252_JMSUtilByBytePct	一杯になった JMS サーバーの割合 (総バイト数ベース)	すべて	RA	危険域 重要警戒	JMS
253	B253_JMSThreshByMessagePct	サーバーで設定したしきい値条件に達した時間の割合 (メッセージ数ベース)	すべて	RA	注意域	JMS
254	B254_JMSThreshByBytePct	サーバーで設定したしきい値条件に達した時間の割合 (総バイト数ベース)	すべて	RA	注意域	JMS
255	B255_JMSServerThruMessageRt	1 秒あたりに JMS サーバーを通じて渡されたメッセージの数	すべて	R		JMS
256	B256_JMSServerThruByteRt	1 秒あたりに JMS サーバーを通じて渡されたバイト数	すべて	R		JMS
260	B260_JDBCConnectionPoolUtil	接続プール内の使用可能な JDBC 接続の使用率	すべて	RA	危険域 重要警戒	JDBC
61	B061_JDBCConPIWtCnt	接続プールからの接続を取得するために待機しているクライアントの数	すべて	GA	注意域	JDBC
262	B262_JDBCConnectionPoolThruRt	1 秒あたりに接続プールで処理されるクライアントの数	すべて	R		JDBC
63	B063_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRtSum	閉じられていない JDBC 接続と、最大待ち時間を超えた JDBC 接続の 1 秒あたりの数	7.0、 8.1、9	G		JDBC
263	B263_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRt	JDBC 接続プールのリークした接続の割合	7.0、 8.1、9	RA	注意域	JDBC
264	B264_JDBCConnectionPoolFailures	JDBC 接続プールの障害	7.0、 8.1、9	A	注意域	JDBC

図3 メトリックの概要 (3/4 ページ)

番号	メトリック名	説明	使用可能な WLS のバージョン	タイプ	重要度
70	B070_TrانAveTime	トランザクションの平均コミット時間	すべて	GRA	警戒域
270	B270_ConnectorConnectionPoolUtil	接続プール内の使用可能な JCA 接続の使用率	7.0、8.1、9	RA	危険域 重要警戒域
71	B071_TrانRollbackPct	ロールバックされたトランザクションの数	すべて	GRA	警戒域
72	B072_TrانResErrRbPct	リソース エラーのためにロールバックされたトランザクションの割合	すべて	GRA	警戒域
73	B073_TrانAppErrRbPct	アプリケーション エラーのためロールバックされたトランザクションの割合	すべて	GRA	警戒域
74	B074_TrانTimErrRbPct	タイムアウト エラーのためロールバックされたトランザクションの割合	すべて	GRA	警戒域
75	B075_TrانSysErrRbPct	システム エラーのためロールバックされたトランザクションの割合	すべて	GRA	警戒域
76	B076_TrانThruRate	1 秒あたりに処理されるトランザクションの数	すべて	GR	
77	B077_TrانHeurCnt	ヒューリスティックな決定を返すトランザクションの割合	すべて	GRA	警戒域
78	B078_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRateSum	閉じていないコネクタ接続と、最大待ち時間を超えたコネクタ接続の 1 秒あたりの数	7.0、8.1、9	G	
278	B278_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRate	JCA 接続プールのリークした接続の割合	7.0、8.1、9	RA	注意域
79	B079_TrانCapacityUtil	トランザクション容量の使用率	7.0、8.1、9	GRA	危険域 重要警戒域

図 4 メトリックの概要 (4/4 ページ)

番号	メトリック名	説明	使用可能な WLS のバージョン	タイプ	重要度	領域
80	B080_ClsOutMesFailRt	1 分あたりにクラスタに再送されたマルチキャストメッセージの数	すべて	GA	警戒域	クラスタ
81	B081_ClsInMesFailRt	サーバーで失われた、クラスタからの 1 分当たりのマルチキャストメッセージの数	すべて	GA	警戒域	クラスタ
281	B281_XMLCacheDiskSize	XML パーサーでの外部参照が含まれるディスクにキャッシュされたエントリの総数	7.0、8.1、9	R	N/A	XML キャッシュ
282	B282_XMLCacheMemory Size	XML パーサーでの外部参照が含まれるメモリにキャッシュされたエントリの総数	7.0、8.1、9	R	N/A	XML キャッシュ
283	B283_DeferredRequestsCnt	保留状態の要求の数	9	GA	注意域	XML キャッシュ
284	B284_ReqWaitTimeForThread	スレッド要求待ち時間	9	GA	注意域	XML キャッシュ
85	B085_InvLoginAttCnt	無効なログイン試行の数	すべて	GA	警戒域	セキュリティ
285	B285_PendingReqCount	保留状態の要求の数	9	GA	注意域	XML キャッシュ
286	B286_PendingReqPct	保留状態の要求の割合	9	GA	警戒域	XML キャッシュ
287	B287_ReqMaxWaitTime	スレッド要求最長待ち時間	9	GA	注意域	XML キャッシュ
288	B288_StandbyThreadCount	スタンバイ プールのスレッド数	9	GA	注意域	XML キャッシュ
90	B090_TimeSerExcepCnt	すべてのトリガーに対してスローされた例外の数	6.1、7.0	A	警戒域	タイム サービス
91	B091_TimeSerThruRt	1 秒あたりに実行されるトリガーの数	6.1、7.0	G		タイム サービス
92	B092_ExQueThroughput	実行キューで 1 秒あたりに処理される要求の平均数	9	GA	注意域	タイム サービス

メトリック仕様の説明

メトリック定義のタイトルは、WebLogic Server メトリックのメトリック番号を示しています。メトリック番号の前に付いている "B" は、そのメトリックが BEA WebLogic Server SPI メトリックであることを示しています。

- WLS-SPI メトリック番号は 0000 ～ 0999 の範囲です。
- 0700 ～ 0799 の範囲は、ユーザー定義メトリック用に予約されています。

WLS-SPI メトリックは BXXX として識別できます。ここで、XXX はそのメトリックに割り当てられた番号です。メトリックに対応するモニター テンプレート名は "B" が省略され、代わりに "WLSSPI" で始まり、その後ろにアンダースコアとメトリック番号が続きます。テンプレート名のメトリック番号は、4桁の数値である必要があるためゼロが追加されます (例: メトリック番号 B001 = モニター テンプレート WLSSPI_0001)。

登録アプリケーションレポートでは、メトリック番号とメトリック名が使用されます。たとえば、メトリック 5 の場合、レポートは B005_JVMMemUtilPct で識別されます。

モニター テンプレート名	常に "WLSSPI" で始まり、メトリック番号が続きます。モニター テンプレート内では、定義に記述されているように設定を変更できます。たとえば、しきい値や重要度の設定を変更できます。
メトリック名	メトリックに割り当てられた名前。
メトリック タイプ	メトリックの使用法を示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 警告通知 (モニター テンプレートの設定を使用)、 • レポート作成 (HP OpenView Reporter (別売り) のレポート内)、または • グラフ作成 (HP OpenView Performance (別売り) のグラフ内)
説明	メトリックの意味。
使用可能な WLS のバージョン	メトリックを使用できる WebLogic Server のバージョン (6.1、7.0、8.1、9)。WLS-SPI は、サービス パックがインストールされたバージョン 6.1 (バージョン 6.1 SP1 以降) のみをサポートします。
重要度: 条件	しきい値を超えた条件に対する重要度 (危険域、重要警戒域、警戒域、注意域、正常域)。 段階的なしきい値など、メトリックに複数の条件が定義されている場合、重要度レベルは特定の条件に応じて設定されます。
収集間隔	メトリックを収集して分析する間隔 (5 分、15 分、1 時間、1 日)。
OVO の最小/ 最大しきい値	この設定はすべての WebLogic Server メトリックで同じであるため (すべてが最大しきい値)、省略されます。
OVO の デフォルトの しきい値	メトリックとそれに対応するモニター テンプレートに関する OVO のデフォルトのしきい値を示します。OVO のしきい値は値以下または値以上にしか設定できないため、しきい値 0 を意味するメトリックでは 0.5 に設定されています。これは、しきい値が 0 に設定されている場合、常に警告が発生するためです。
OVO のしきい値 タイプ	この設定はすべての WebLogic Server メトリックで同じであるため (リセットなし)、省略されます。

メッセージグループ	メトリックが属する OVO メッセージグループ。 (WLSSPI = WLS-SPI で発生する条件、 WebLogic = WebLogic Server で発生する条件)。
メッセージテキスト	各条件で表示されるメッセージ。
指示文	問題を解決するための情報の日本語訳 (原因、影響、処置、およびレポート)。
レポートタイプ	<p>レポートまたはグラフが使用可能なときにそれらを生成する方法 (登録アプリケーション、自動、オペレータ起動、なし)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録アプリケーション - OVO の登録アプリケーションからレポートを生成できます。 自動 - イベントが検出されると、レポートが自動的に生成されます。 オペレータ起動 - レポートまたはグラフは、オペレータによって手動で生成されます。 なし - レポートもグラフも設定されていません。 <p>自動またはオペレータ起動のレポートは、すべて登録アプリケーションで使用できます。しかし、登録アプリケーションのレポートの中には、自動またはオペレータ起動で使用できないものもあります。MEASUREWARE データの収集のみを行うメトリック (警告なし) を使用するレポートには、オペレータ起動アクションまたは自動アクションを使用できる OVO テンプレートはありません。これらのレポートは、登録アプリケーションでのみ使用できます。</p>
領域	メトリックが対象とする論理的な領域 (可用性、JVM、パフォーマンス、EJB、サーブレット、Web アプリケーション、JMS、JDBC、トランザクション、コネクタ、クラスタ、XML キャッシュ、セキュリティ、タイム サービス)。

メトリック B001_ServerStatus

モニター テンプレート名	WLSSPI_0001
メトリック名	B001_ServerStatus
メトリック タイプ	警告通知
説明	サーバーのステータス、動作状況の監視。
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: しきい値による条件	危険域: WLSSPI-0001.1、しきい値 0.5 注意域: WLSSPI-0001.2、しきい値 1.5
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0001.1: Server status is unknown (down) WLSSPI-0001.2: Server status: Suspended
指示文	<p>このメトリックは、サーバーごとにステータス (実行中 (RUNNING)、中断中 (SUSPENDED)、または不明 (UNKNOWN)) をレポートします。</p> <p>原因: サーバーが実行状態にない場合、以下のイベントが発生した可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 WebLogic 管理者が、Administration Console から [このサーバを正常に停止] を選択しました。 2 WebLogic 管理者が、Administration Console から [このサーバをスタンバイモードで起動] を選択しました。 3 その他の理由でサーバーが停止した可能性があります。 <p>影響: サーバーがシャットダウンされているか、シャットダウン処理中の場合、サーバーに接続できなくなります。サーバーが中断されている場合、サーバーは管理サーバーからの要求だけを受け取ります。WebLogic Server を中断すると、HTTP 要求へのサーバー応答だけが中断されます。Java アプリケーションと RMI 呼び出しは中断されません。</p> <p>処置: 指定されたサーバーが実行されていない場合は、WebLogic 管理者が適切なスクリプトを使用してそのサーバーを起動する必要があります。その場合、サーバーが管理サーバーであるか管理対象サーバーであるかによって、起動スクリプトが異なるため、注意してください。</p> <p>サーバーが中断した場合、何らかの理由でその状態に陥った可能性があります。通常、この機能は、WebLogic Server が別のサーバーの「ホット」バックアップとして動作している状況で使用されます。そうしてよい場合は、Administration Console から [このサーバを再開] コマンドを実行します。</p>
レポート タイプ	なし
領域	可用性

メトリック B002_ServerStatusRep

モニター テンプレート名	なし — レポートの作成に使用
メトリック名	B002_ServerStatusRep
メトリック タイプ	レポート作成
説明	サーバーのステータス — レポート作成
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	なし
収集間隔	5分
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション レポート (ASCII レポート)
領域	可用性

メトリック B005_JVMMemUtilPct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0005
メトリック名	B005_JVMMemUtilPct
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	JVM で使用されるヒープ領域の割合
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度：条件	危険域：WLSSPI-0005.1、しきい値 98 重要警戒域：WLSSPI-0005.2、しきい値 95
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0005.1: % of heap space used (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)

<p>指示文</p>	<p>JVM は、使用可能なヒープ領域を使い果たしています。</p> <p>原因: JVM のヒープ サイズの設定が、クライアントの負荷に対して低すぎると思われます。</p> <p>影響: JVM のヒープ サイズによって、VM がガーベッジ コレクション (未使用の Java オブジェクトの割り当て解除) を行う頻度と期間が決まります。Java プログラムのオブジェクトは Java ヒープに保持されます。実行中のプログラムのポインターからオブジェクトを参照できなくなると、そのオブジェクトはガーベッジコレクションの対象になります。</p> <p>ガーベッジコレクションはパフォーマンスに影響を与えます。これは、ガーベッジコレクションの実行中は、JVM の処理が継続できないからです。ガーベッジコレクションによる影響の許容範囲はアプリケーションによって異なるため、実際のガーベッジコレクションの実行時間と発生頻度を分析してから調整する必要があります。</p> <p>ヒープ サイズを調整する目的は、ガーベッジコレクションに費やす時間を最小にしながら、所定の時間に処理できるクライアントの数を最大にすることです。</p> <p>ヒープ サイズを大きく設定すると、完全なガーベッジコレクションの処理速度は遅くなりますが、発生頻度は少なくなります。ヒープ サイズを小さくすると、完全なガーベッジコレクションの処理速度は速くなりますが、発生頻度は多くなります。</p> <p>処置: ヒープ サイズの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>サーバーの起動に使用するスクリプトの Java コマンド行で、-Xms および -Xmx オプションを使用してヒープ サイズを設定できます。</p> <p>-Xms オプションを使用して、ヒープの最小サイズを設定します。この値は、1MB より大きい 1024 の倍数に設定します。</p> <p>-Xmx オプションを使用して、Java ヒープの最大サイズを設定します。この値は、1MB より大きい 1024 の倍数に設定します。</p> <p>通常は、最小ヒープ サイズと最大ヒープ サイズに同じ値を設定します。Java 1.3 HotSpot JVM を使用している場合は、世代領域のヒープ サイズも設定します。ヒープサイズは、システムで利用可能な RAM の容量より大きくしないでください。システムがページをディスクにスワップしない範囲で、できるだけ大きなヒープ サイズを使用します。システムでヒープに利用可能な RAM の容量は、ご使用のコンピュータのハードウェア構成と実行中のプロセスのメモリ要件によって異なります。そのため、使用可能な RAM の容量を判断する際は、システム管理者にお問い合わせください。</p> <p>一般的には、オペレーティングシステムや他のプロセスが使用しない RAM の 80% を JVM で使用します。大量の RAM が残っている場合は、より多くの WebLogic Server をコンピュータで実行してください。</p>
<p>レポート タイプ</p>	<p>登録アプリケーション</p>
<p>領域</p>	<p>JVM</p>

メトリック B010_ExQueThruRate

モニター テンプレート名	なし — レポートおよびグラフの生成に使用
メトリック名	B010_ExQueThruRate
メトリック タイプ	レポート作成、グラフ作成
説明	実行キューで1秒あたりに処理される要求の数。WebLogic Server バージョン 9 の実行キューは1つのみです。
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度：条件	なし
収集間隔	15分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	パフォーマンス

メトリック B011_ExQThrdUtilPct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0011
メトリック名	B011_ExQThrdUtilPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	サーバーの実行キューに使用されているスレッドの割合。WebLogic Server バージョン 9 の実行キューは 1 つのみです。
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度：条件	危険域：WLSSPI-0011.1、しきい値 90 重要警戒域：WLSSPI-0011.2、しきい値 85 警戒域：WLSSPI-0011.3、しきい値 80
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0011.1: % of execute queue threads used (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)

<p>指示文</p>	<p>WebLogic サーバーの実行スレッドの使用率が、しきい値を超えました。</p> <p>原因：クライアントから受信する要求の数が増加したため、すべての実行スレッドが割り当て済みになりました。</p> <p>影響：100%の使用率では、WebLogic サーバーは受信する要求を処理するためのスレッドを使用できません。</p> <p>処置：実行スレッド プールの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。システム管理者は、Administration Console から実行スレッドの総数を増やすことができます。しかし、多くのスレッドを追加しても、必ずしも多くの作業を処理できるわけではないことに注意してください。多くのスレッドを追加しても、プロセッサのパワーによる制限は残ります。この値を不必要に増やすと、パフォーマンスが低下することもあります。スレッドはメモリを消費するリソースであるため、実行スレッドの数が多すぎると、メモリの使用量が増え、コンテキスト切り替えが増加するため、パフォーマンスが低下します。スレッド数の値は、アプリケーションが行う作業の種類に強く依存します。たとえば、シンクライアントで、クライアントアプリケーションがその作業の多くをリモート呼び出しを通じて行う場合、クライアントアプリケーションが接続に費やす時間は、クライアント側の処理を多く行うクライアントアプリケーションの場合より多くなります。そのため、作業に追加スレッドを使用する必要がない場合は、この属性の値を変更しないでください。スレッドはクライアント アプリケーション用に確保されません。</p> <p>結果が返されるまでに時間のかかるデータベースへの問い合わせを行うアプリケーションの場合、短時間で結果が返される問い合わせをするアプリケーションよりも多くの実行スレッドが必要になります。後者の場合は、少数の実行スレッドを使用するため、より良いパフォーマンスが得られます。</p> <p>Thread Count の設定については、以下のシナリオを指針にしてください。</p> <p>Thread Count < CPU 数：スレッド数を増やす</p> <p>Thread Count = CPU 数：スレッド数を増やす</p> <p>Thread Count > CPU 数 (スレッド数が少し多い)：いくらかの調整が必要な場合もあるが、ほぼ理想的</p> <p>Thread Count > CPU 数 (スレッド数が大幅に多い)：スレッド数を減らす</p>
<p>レポート タイプ</p>	<p>登録アプリケーション</p>
<p>領域</p>	<p>パフォーマンス</p>

メトリック B012_ExQueWaitCnt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0012
メトリック名	B012_ExQueWaitCnt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	処理を待つクライアント要求の数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度：条件	警戒域：WLSSPI-0012.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
メッセージ テキスト	WLSSPI-0012.1: # of requests waiting to be serviced (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>)
指示文	<p>処理を待つクライアント要求の数がしきい値を超えました。</p> <p>原因：大量の要求を継続的に受信したため、処理が必要な要求数が利用可能なスレッドの数を超えました。</p> <p>影響：クライアントから見たパフォーマンスの低下。</p> <p>処置：クライアント要求が実行スレッドの割り当てを待っていますが、多くのスレッドを追加しても、必ずしも多くの作業を処理できるわけではないことに注意してください。多くのスレッドを追加しても、プロセッサのパワーによる制限は残ります。この値を不必要に増やすと、パフォーマンスが低下することもあります。スレッドはメモリを消費するリソースであるため、実行スレッドの数が多すぎると、メモリの使用量が増え、コンテキスト切り替えが増加するため、パフォーマンスが低下します。</p> <p>この状態が続く場合は、プロセッサ パワーをアップグレードする必要があります。別の解決策はリソースの追加です。WebLogic サーバーがクラスタ内で構成されている場合は、負荷処理能力を高めるために、クラスタに WebLogic サーバーを追加することができます。よく設計されたアプリケーションでは、サーバーの追加でリニアなスケーラビリティが得られます。</p> <p>実行スレッド プールの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p>
領域	パフォーマンス

メトリック B013_SocketTrafficRt

モニター テンプレート名	なし — グラフの生成に使用
メトリック名	B013_SocketTrafficRt
メトリック タイプ	グラフ作成
説明	1 秒あたりに開かれるソケット接続の数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	なし
収集間隔	15 分
OVO のデフォルトのしきい値	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	パフォーマンス

メトリック B014_ActiveSocketCnt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0014
メトリック名	B014_ActiveSocketCnt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	オープン ソケット 接続の数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0014.1、しきい値 5
収集間隔	15 分
メッセージ テキスト	WLSSPI-0014.1: # of socket connections currently open (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>)
指示文	<p>オープン ソケットの数が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: 現在のオープン ソケットの数が、その WebLogic サーバーで使用を想定しているオープン ソケットの数より大きくなっています。</p> <p>影響: オープン ソケットの数が、割り当てられたソケット リーダー スレッドの数より大きい場合、受信する要求はソケット リーダー スレッドが解放されるまで待機する必要があります。</p> <p>処置: Administration Console からソケット リーダー スレッドの数を増やすことを検討してください。使用を想定しているオープン ソケットの最大数まで増やすとよいでしょう。実行スレッドをソケット リーダー スレッドとして機能するように割り当てると、サーバーがクライアント要求を処理する速度と処理能力が向上します。ただし、ソケットからメッセージを読み込む実行スレッドの数と、実際にサーバーでタスクを実行する実行スレッドの数のバランスをとることが重要です。実行スレッド プールの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p>
レポート タイプ	Serverstat グラフのオペレータ アクション
領域	パフォーマンス

メトリック B015_SrvrRestartsPct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0015
メトリック名	B015_SrvrRestartsPct
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成 (ログの記録のみ。グラフは作成されない)
説明	許容可能な再起動の発生する割合
使用可能な WLS のバージョン	7.0、8.1、9
重要度 : 条件	危険域 : WLSSPI-0015.1、しきい値 90% 注意域 : WLSSPI-0015.2、しきい値 70%
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0015.x: % of permissible restarts (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	
レポート タイプ	自動アクション : ASCII レポート
領域	パフォーマンス

メトリック B025_EJBFreePoolWtRt

モニター テンプレート名	WLSSPI_025
メトリック名	B025_EJBFreePoolWtRt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	フリー プールから EJB Bean を利用できなかった 1 分当たりの回数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度 : 条件	注意域 : WLSSPI-0025.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0225.1: # of times per minute no EJBs were available from the free pool (<\$VALUE>/min) too high (>=<\$THRESHOLD>/min)
指示文	<p>フリー プールから EJB を利用できなかった 1 分あたりの回数が、しきい値を超えました。</p> <p>原因 : max-beans-in-free-pool 要素が低く設定されているか、EJB クラスのすべてのインスタンスがアクティブになっています。</p> <p>影響 : EJB クラスを要求する新しいクライアントは、アクティブな EJB がメソッド呼び出しを完了するまでブロックされます。</p> <p>処置 : EJB が作成されると、セッション Bean のインスタンスが作成され、識別情報が与えられます。クライアントが Bean を削除すると、その Bean のインスタンスがフリー プールに置かれます。続けて Bean を作成するときは、フリー プールにある前のインスタンスを再利用して、オブジェクトの割り当てを避けることができます。EJB の作成と削除が頻繁に行われる場合は、max-beans-in-free-pool 要素でパフォーマンスを改善できます。</p> <p>コンテナは、メッセージの並行処理を行うために、必要に応じてメッセージ Bean の新規インスタンスを作成します。max-beans-in-pool 要素が、これらのインスタンスの最大作成数に関する制限を設定します。コンテナは、使用できる実行時のリソースに応じてこの設定を無効にできます。</p> <p>ステートレスなセッション Bean とメッセージ Bean のパフォーマンスを最高にするために、max-beans-in-free-pool 要素のデフォルト設定を使用してください (デフォルトは制限なしです)。こうすれば、利用可能なスレッドと共に、できるだけ多くの Bean を並行して実行できます。</p> <p>設定の変更が必要になるケースは、並行して実行する Bean の数を制限するか、基になるリソースへのアクセスを制限する場合だけです。たとえば、ステートレス session EJB を使用してレガシー接続プールを実装する場合は、レガシー システムでサポートできる接続数を超えて Bean のインスタンスを割り当てないでください。</p> <p>EJB パラメータの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	EJB

メトリック B225_EJBFreePoolWaitRate

モニター テンプレート名	WLSSPI_0225
メトリック名	B225_EJBFreePoolWaitRate
メトリック タイプ	警告通知
説明	フリープールから EJB Bean を利用できなかった 1 分当たりの回数 (ドリルダウン)
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0225.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
OVO のデフォルトのしきい値	10
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0225.1: # of times per minute no EJBs were available from the free pool (<\$VALUE>/min) too high (>=<\$THRESHOLD>/min)

指示文	<p>フリープールから EJB を利用できなかった 1 分あたりの回数が、しきい値を超えました。</p> <p>原因 : max-beans-in-free-pool 要素が低く設定されているか、EJB クラスのすべてのインスタンスがアクティブになっています。</p> <p>影響 : EJB クラスを要求する新しいクライアントは、アクティブな EJB がメソッド呼び出しを完了するまでブロックされます。</p> <p>処置 : EJB が作成されると、セッション Bean のインスタンスが作成され、識別情報が与えられます。クライアントが Bean を削除すると、その Bean のインスタンスがフリープールに置かれます。続けて Bean を作成するときは、フリープールにある前のインスタンスを再利用して、オブジェクトの割り当てを避けることができます。EJB の作成と削除が頻繁に行われる場合は、max-beans-in-free-pool 要素でパフォーマンスを改善できます。</p> <p>コンテナは、メッセージの並行処理を行うために、必要に応じてメッセージ Bean の新規インスタンスを作成します。max-beans-in-pool 要素が、これらのインスタンスの最大作成数に関する制限を設定します。コンテナは、使用できる実行時のリソースに応じてこの設定を無効にできます。</p> <p>ステートレスなセッション Bean とメッセージ Bean のパフォーマンスを最高にするために、max-beans-in-free-pool 要素のデフォルト設定を使用してください (デフォルトは制限なしです)。こうすれば、利用可能なスレッドと共に、できるだけ多くの Bean を並行して実行できます。</p> <p>設定の変更が必要になるケースは、並行して実行する Bean の数を制限するか、基になるリソースへのアクセスを制限する場合だけです。たとえば、ステートレス session EJB を使用してレガシー接続プールを実装する場合は、レガシーシステムでサポートできる接続数を超えて Bean のインスタンスを割り当てないでください。</p> <p>EJB パラメータの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンスチューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p>
レポート タイプ	なし
領域	EJB

メトリック B026_EJBTimeoutRt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0026
メトリック名	B026_EJBTimeoutRt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	EJB Bean の待機中にクライアントがタイムアウトした 1 分あたりの回数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0026.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
OVO のデフォルトのしきい値	10
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0226.1: # of times per minute a client timed out waiting for an EJB (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>)
指示文	<p>EJB の待機中にクライアントがタイムアウトした 1 分あたりの回数が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: EJB クラスのインスタンスがすべてアクティブで、max-beans-in-free-pool に達した場合、EJB クラスを要求する新しいクライアントはアクティブな EJB がメソッド呼び出しを完了するまでブロックされます。</p> <p>影響: トランザクションがタイムアウトすると (非トランザクション呼び出しの場合は、5 分経過すると)、WebLogic Server は RemoteException をスローします。</p> <p>処置: max-beans-in-free-pool 要素の設定が低すぎないことを確認します。また、bean のインスタンスが使用できない場合、WebLogic Server は新しいインスタンスを割り当てようとはしますが、実際には実行可能なスレッドの数によって制限されます。ほとんどの場合、各スレッドには最大で 1 つの bean インスタンスが必要です。</p> <p>EJB パラメータの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	EJB

メトリック B226_EJBTimeoutRate

モニター テンプレート名	WLSSPI_0226
メトリック名	B226_EJBTimeoutRate
メトリック タイプ	警告通知
説明	EJB Bean の待機中にクライアントがタイムアウトした 1 分あたりの回数 (ドリルダウン)
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度 : 条件	注意域 : WLSSPI-0226.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0226.1: # of times per minute a client timed out waiting for an EJB (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>)
指示文	<p>EJB の待機中にクライアントがタイムアウトした 1 分あたりの回数が、しきい値を超えました。</p> <p>原因 : EJB クラスのインスタンスがすべてアクティブで、max-beans-in-free-pool に達した場合、EJB クラスを要求する新しいクライアントはアクティブな EJB がメソッド呼び出しを完了するまでブロックされます。</p> <p>影響 : トランザクションがタイムアウトすると (非トランザクション呼び出しの場合は、5 分経過すると)、WebLogic Server は RemoteException をスローします。</p> <p>処置 : max-beans-in-free-pool 要素の設定が低すぎないことを確認します。また、bean のインスタンスが使用できない場合、WebLogic Server は新しいインスタンスを割り当てようとしますが、実際には実行可能なスレッドの数によって制限されます。ほとんどの場合、各スレッドには最大で 1 つの bean インスタンスが必要です。</p> <p>EJB パラメータの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p>
レポート タイプ	自動アクション : ASCII レポート
領域	EJB

メトリック B035_EJBTranThruRt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0035
メトリック名	B035_EJBTranThruRt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	1 秒当たりの EJB トランザクションの数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0035.1、しきい値 10000
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0035.1: # of EJB transactions per second (<\$VALUE>/sec) too high (>=<\$THRESHOLD>/sec)
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	EJB

メトリック B036_EJBTranRbRt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0036
メトリック名	B036_EJBTranRbRt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	1 秒当たりの、ロールバックした EJB トランザクションの数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0036.1、しきい値 1
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0036.1: # of EJB transactions rolled back per second (<\$VALUE>/sec) too high (>=<\$THRESHOLD>/sec)
指示文	<p>1 秒あたりにロールバックした EJB トランザクションの数が、しきい値を超えました。</p> <p>原因 : アプリケーションの設計かリソースの問題です。ロールバックの原因については、メトリック 72 ~ 75 を参照してください。</p> <p>影響 : 正常に終了するユーザー要求が減少します。</p> <p>処置 : WebLogic 管理者は、必要なデータベース システムをチェックし、正常に機能することを確認してください。また、管理者は Administration Console からトランザクションを監視することができます。</p> <p>これには以下のものが含まれます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	EJB

メトリック B238_EJBCacheHitPct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0238
メトリック名	B238_EJBCacheHitPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	使用中のキャッシュ内の EJB の割合
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度 : 条件	注意域 : WLSSPI-0238.1、しきい値 90
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0238.1: % of EJBs in the cache in use (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	<p>EJB キャッシュの使用率が、しきい値を超えました。</p> <p>原因 : キャッシュ サイズの設定が低すぎる可能性があります。</p> <p>影響 : 最大キャッシュ サイズに達すると、WebLogic Server は、最近クライアントに使用されていない EJB の一部をパッシベーション (メモリ から 2 次記憶領域に転送) するため、パフォーマンスが低下します。</p> <p>処置 : weblogic-ejb-jar.xml ファイルの max-beans-in-cache 属性を高い値に設定します。ただし、この値を高く設定しすぎると、不必要にメモリが消費されることがあるので注意が必要です。EJB パラメータの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p>
レポート タイプ	自動アクション : ASCII レポート
領域	EJB

メトリック B240_ServletAveExecTime

モニター テンプレート名	WLSSPI_0240
メトリック名	B240_ServletAveExecTime
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	サーブレットの平均実行時間 (ミリ秒)
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0240.1、しきい値 1000
収集間隔	1 時間
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0240.1: Ave. execution time for a servlet (<\$VALUE>ms) too high (>=<\$THRESHOLD>ms)
指示文	<p>サーブレットの平均実行時間が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: アプリケーションの設計に問題があります。</p> <p>影響: クライアント アプリケーションからの HTTP 要求に HTML または XML 応答が返る時間が遅くなります。</p> <p>処置: サーブレットの実行時間が長くなる原因には、リソースの競合が発生しているか、サーブレットの設計に問題があると考えられます。値が常にしきい値を超える場合は、このメトリックのしきい値の設定を再評価することもできます。</p> <p>Web ベースのアプリケーションで JSP が多用される場合は、対応する .jsp ファイルを Java サーブレットにコンパイルし、Java コードを Java クラス ファイルにコンパイルしなければならないため、パフォーマンスに影響を与えている可能性があります。この場合、サーバーの Java コンパイラを javac ではなく sj または jikes に設定することで、パフォーマンスが大幅に改善されます。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	サーブレット

メトリック B241_ServletTimeCnt

モニター テンプレート名	なし — レポートの作成に使用
メトリック名	B241_ServletTimeCnt
メトリック タイプ	レポート作成
説明	サーブレットで費やされる時間
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	なし
収集間隔	1 時間
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	サーブレット

メトリック B242_ServletReqRate

モニター テンプレート名	WLSSPI_0242
メトリック名	B242_ServletReqRate
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	1 秒あたりのサーブレットの要求数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0242.1、しきい値 10000
収集間隔	1 時間
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0242.1: # of requests for a servlet (<\$VALUE>/sec) too high (>=<\$THRESHOLD>/sec)
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	サーブレット

メトリック B245_WebAppSessionCnt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0245
メトリック名	B245_WebAppSessionCnt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	Web アプリケーションのオープン セッションの数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度 : 条件	注意域 : WLSSPI-0245.1、しきい値 100
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0245.1: # of open sessions for a web application (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>)
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション : ASCII レポート
領域	Web アプリケーション

メトリック B246_WebAppHitRt

モニター テンプレート名	なし — レポートの作成に使用
メトリック名	B246_WebAppHitRt
メトリック タイプ	レポート作成
説明	Web アプリケーションが実行している 1 秒あたりのオープン セッションの数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	Web アプリケーション

メトリック B251_JMSUtilByMessagePct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0251
メトリック名	B251_JMSUtilByMessagePct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	<p>一杯になった JMS サーバーの割合 (メッセージ数ベース)。</p> <p>このメトリックを使用して Reporter データを記録し、しきい値を監視するには、Messages Maximum (JMS サーバーに格納できる最大メッセージ数の割り当て) を 0 より大きい数値に設定する必要があります。この値は、WebLogic コンソールで設定します。</p> <p>Messages Maximum の値がデフォルト値 (-1) の場合、データは記録されず、しきい値は監視されません。</p>
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度 : 条件	<p>危険域 : WLSSPI-0251.1、しきい値 98%</p> <p>重要警戒域 : WLSSPI-0251.2、しきい値 95%</p>
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0251.1: % of JMS queue filled by message count (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	<p>JMS サーバーのキュー使用率が、しきい値より大きくなっています。</p> <p>原因 : キューのサイズの設定が低すぎる可能性があります。</p> <p>影響 : キューの使用率が 100 % に達すると、ユーザーはそのキューにメッセージを配布できなくなります。</p> <p>処置 : 可能な場合は、管理者は Administration Console を使用してキューのサイズを増やすことができます。また、管理者はそのコンソールを使用して JMS サーバー内の個々の送り先を調べて、どの送り先キューに問題があるかを判定することもできます。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション : ASCII レポート
領域	Java Message Service (JMS)

メトリック B252_JMSUtilByBytePct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0252
メトリック名	B252_JMSUtilByBytePct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	一杯になった JMS サーバーの割合（総バイト数ベース）。 このメトリックを使用して Reporter データを記録し、しきい値を監視するには、Bytes Maximum (JMS サーバーに格納できる最大バイト数の割り当て) を 0 より大きい数値に設定する必要があります。この値は、WebLogic コンソールで設定します。 Bytes Maximum の値がデフォルト値 (-1) の場合、データは記録されず、しきい値は監視されません。
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度：条件	危険域：WLSSPI-0252.1、しきい値 98% 重要警戒域：WLSSPI-0252.2、しきい値 95%
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0252.1: % of JMS queue filled by byte count (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	JMS サーバーのキュー使用率が、しきい値より大きくなっています。 原因 ：キューのサイズの設定が低すぎる可能性があります。 影響 ：キューの使用率が 100 % に達すると、ユーザーはそのキューにメッセージを配布できなくなります。 処置 ：可能な場合は、管理者は Administration Console を使用してキューのサイズを増やすことができます。また、管理者はそのコンソールを使用して JMS サーバー内の個々の送り先を調べて、どの送り先キューに問題があるかを判定することもできます。
レポート タイプ	ASCII レポート
領域	Java Message Service (JMS)

メトリック B253_JMSThreshByMessagePct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0253
メトリック名	B253_JMSThreshByMessagePct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	サーバーで設定したしきい値条件に達した時間の割合 (メッセージ数ベース)
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0253.1、しきい値 10%
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0253.1: # of time queue threshold condition was satisfied by message count (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	<p>JMS キューがしきい値条件に達した時間が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: 保存されたメッセージの数が、Administration Console で設定した JMS サーバーのメッセージキューのしきい値条件に、達した状態で長時間が経過しました。</p> <p>影響: キューの使用率が 100 % に達すると、ユーザーはそのキューにメッセージを配布できなくなります。</p> <p>処置: 可能な場合は、管理者は Administration Console を使用してキューのサイズを増やすことができます。また、管理者はそのコンソールを使用して JMS サーバー内の個々の送り先を調べて、どの送り先キューに問題があるかを判定することもできます。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	Java Message Service (JMS)

メトリック B254_JMSThreshByBytePct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0254
メトリック名	B254_JMSThreshByBytePct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	サーバーで設定したしきい値条件に達した時間の割合（総バイト数ベース）
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度：条件	注意域：WLSSPI-0254.1、しきい値 10%
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0254.1: # of time queue threshold condition was satisfied by byte count (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	<p>JMS キューがしきい値条件に達した時間が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: 保存されたメッセージの数が、Administration Console で設定した JMS サーバーのメッセージ キューのしきい値条件に、達した状態で長時間が経過しました。</p> <p>影響: キューの使用率が 100 % に達すると、ユーザーはそのキューにメッセージを配布できなくなります。</p> <p>処置: 可能な場合は、管理者は Administration Console を使用してキューのサイズを増やすことができます。また、管理者はそのコンソールを使用して JMS サーバー内の個々の送り先を調べて、どの送り先キューに問題があるかを判定することもできます。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション レポート (ASCII レポート)
領域	Java Message Service (JMS)

メトリック B255_JMSSThruMessageRt

モニター テンプレート名	なし — レポートの作成に使用
メトリック名	B255_JMSSThruMessageRt
メトリック タイプ	レポート作成
説明	1 秒あたりに JMS サーバーを通じて渡されたメッセージの数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	なし
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	Java Message Service (JMS)

メトリック B256_JMSSThruByteRt

モニター テンプレート名	なし — レポートの作成に使用
メトリック名	B256_JMSSThruByteRt
メトリック タイプ	レポート作成
説明	1 秒あたりに JMS サーバーを通じて渡されたバイト数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	なし
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	Java Message Service (JMS)

メトリック B260_JDBCConnectionPoolUtil

モニター テンプレート名	WLSSPI_0260
メトリック名	B260_JDBCConnectionPoolUtil
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	接続プール内の使用可能な JDBC 接続の使用率
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	危険域: WLSSPI-0260.1、しきい値 98% 重要警戒域: WLSSPI-0260.2、しきい値 95%
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0260.x: % utilization of available JDBC connections in connection pool (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	<p>JDBC 接続プールの使用率が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: 使用可能な JDBC 接続の数が少なすぎます。</p> <p>影響: DBMS への JDBC 接続を待たなければならないため、パフォーマンスが低下します。</p> <p>処置: データベース システムに接続数を追加できる場合、WebLogic 管理者はその接続プールに使用できる接続数を増やしてください。経験則では、接続プールの最大サイズを、WebLogic Server で構成された実行スレッドの数に等しくするべきです。これは、各スレッドが 1 つのトランザクションを使用して要求を処理するため、1 つの接続だけが必要であることを前提にしています。そうでない場合は、接続プールがやや大きい方が効率的でしょう。</p> <p>接続プールの最小サイズを最大サイズと同じにすれば、サーバーが高負荷状態時ではなく、サーバーの起動時にすべてのデータベース接続が取得されることが保証されます。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	JDBC

メトリック B061_JDBCConPIWtCnt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0061
メトリック名	B061_JDBCConPIWtCnt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	接続プールからの接続を取得するために待機しているクライアントの数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0061.1、しきい値 10
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0061.1: # of clients waiting for a connection from connection pools (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>)
指示文	<p>接続を待つクライアントの数が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: JDBC 接続を要求する現在のクライアントの数に比べて、接続プールのサイズが小さすぎます。</p> <p>影響: クライアントの接続要求は、接続プールからの使用可能な接続を取得するために待機しなければなりません。</p> <p>処置: 接続プールの最大サイズを増やします。経験則では、接続プールの最大サイズを、WebLogic Server で構成された実行スレッドの数に等しくする必要があります。これは、各スレッドが 1 つのトランザクションを使用して要求を処理するため、1 つの接続だけが必要であることを前提にしています。そうでない場合は、接続プールがやや大きい方が効率的でしょう。</p> <p>接続プールの最小サイズを最大サイズと同じにすれば、サーバーが高負荷状態時ではなく、サーバーの起動時にすべてのデータベース接続が取得されることが保証されます。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	JDBC

メトリック B262_JDBCConnectionPoolThruRt

モニター テンプレート名	なし — レポートの作成に使用
メトリック名	B262_JDBCConnectionPoolThruRt
メトリック タイプ	レポート作成
説明	1 秒あたりに接続プールで処理されるクライアントの数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	JDBC

メトリック

B063_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRtSum

モニター テンプレート名	なし — グラフの作成に使用
メトリック名	B063_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRtSum
メトリック タイプ	グラフ作成
説明	接続プール内で閉じられていない JDBC 接続と、最大待ち時間を超えた JDBC 接続の 1 秒あたりの数
使用可能な WLS のバージョン	7.0、8.1、9
重要度：条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	JDBC

メトリック

B263_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0263
メトリック名	B263_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成 (ログの記録のみ。レポートは作成されない)
説明	JDBC 接続プールのリークした接続の割合
使用可能な WLS のバージョン	7.0、8.1、9
重要度 : 条件	注意域 : WLSSPI-0263.1、しきい値 100
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0263.1: Rate of leaked connections for the JDBC connection pool (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>)
指示文	<p>新たにリークした JDBC 接続の割合が、しきい値を超えました。</p> <p>原因 : JDBC 接続リークは、接続プールからチェックアウトしたが、close() メソッドで戻っていない接続を表します。リークした接続は、その後の接続要求の処理には使用できません。</p> <p>影響 : 接続が閉じられると、その接続は今後の接続要求に使用できます。アプリケーションが接続を閉じるのに失敗すると、接続プールの使用可能な接続を使い果たしてしまい、その後の接続要求が失敗することがあります。</p> <p>処置 : 不具合のあるアプリケーションコンポーネントを修正します。接続プールは、すぐに使用できる接続のプールをデータベースに提供するため、アプリケーションが必要なときに接続を作成するオーバーヘッドがなくなります。接続がなくなれば、アプリケーションはその接続を接続プールに戻さなければなりません。</p> <p>JDBC 接続の管理については、使用している WebLogic Server バージョンの『WebLogic JDBC プログラマーズ ガイド』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p>
レポート タイプ	自動アクション : ASCII レポート
領域	JDBC

メトリック B264_JDBCConnectionPoolFailures

モニター テンプレート名	WLSSPI_0264
メトリック名	B264_JDBCConnectionPoolFailures
メトリック タイプ	警告通知
説明	JDBC 接続プールの障害
使用可能な WLS のバージョン	7.0、8.1、9
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0264.1、しきい値 10
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0264.1: JDBC connection pool failures (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>)
指示文	<p>接続プールがデータベースへの接続を更新しようとして失敗した回数が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: この障害は、データベースが利用不能、またはデータベースへの接続が切断されている場合に発生することがあります。</p> <p>影響: クライアントのデータベースへの接続要求が失敗します。</p> <p>処置: JDBC 接続の管理については、使用している WebLogic Server バージョンの『WebLogic JDBC プログラマーズ ガイド』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p>
レポート タイプ	自動アクション: ASCII レポート
領域	JDBC

メトリック

B265_JDBCConnectionPoolAvgConnectionDelayTime

モニター テンプレート名	WLSSPI_0265
メトリック名	B265_JDBCConnectionPoolAvgConnectionDelayTime
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成 (ログの記録のみ。レポートは作成されない)
説明	JDBC 接続プールの接続遅延 (ミリ秒)
使用可能な WLS のバージョン	7.0、8.1、9
重要度 : 条件	注意域 : WLSSPI-0265.1、しきい値 10
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0265.1: JDBC connection pool connection delay (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>)
指示文	データベースから物理的な接続を取得するのに要する平均時間 (ミリ秒) が、しきい値を超えました。 処置 : JDBC 接続の管理については、使用している WebLogic Server バージョンの『WebLogic JDBC プログラマーズ ガイド』を参照してください。このドキュメントは、 http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。
レポート タイプ	自動アクション : ASCII レポート
領域	JDBC

メトリック B070_TrانAveTime

モニター テンプレート名	WLSSPI_0070
メトリック名	B070_TrانAveTime
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	トランザクションの平均コミット時間
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0070.1、しきい値 100 ミリ秒
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0070.1: Ave. commit time for transactions (<\$VALUE>ms) too high (>=<\$THRESHOLD>ms)
指示文	<p>トランザクションの平均コミット時間が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: これは、システムが高負荷状態にあることを示しています。</p> <p>影響: WebLogic Server のトランザクション スループットの低下。</p> <p>処置: 管理者は、Administration Console から個々のトランザクションを監視することができます。統計情報以外に、以下の情報も表示できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B270_ConnectorConnectionPoolUtil

モニター テンプレート名	WLSSPI_0270
メトリック名	B270_ConnectorConnectionPoolUtil
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成 (ログの記録のみ。レポートは作成されない)
説明	接続プール内の使用可能な JCA 接続の使用率
使用可能な WLS のバージョン	7.0、8.1、9
重要度 : 条件	危険域 : WLSSPI-0270.1、しきい値 98 重要警戒域 : WLSSPI-0270.2、しきい値 95
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0270.x: % utilization of available JCA connections in connection pool (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	<p>J2EE コネクタ接続プールの使用率 (接続プール内で使用されている接続の数) が、しきい値を超えました。</p> <p>原因 : 要求された接続の数が、許容最大数に近づいているか、最大数に達しました。</p> <p>影響 : ManagedConnection は絶えず作成されるため、各 ManagedConnection が消費するメモリやディスク容量などのシステム リソースの量が増加し、システム全体のパフォーマンスに影響を与えることがあります。接続要求の間に新しい ManagedConnection の作成が必要になると、WebLogic Server は ManagedConnection の数が許容最大数に達していないことを確認します。最大数に達すると、WebLogic Server は接続プールから ManagedConnection を再利用しようとします。しかし、再利用できる接続がない場合は、再利用の試みが失敗したことと、接続要求は許容最大数までの接続の場合にのみ許可されることを指摘する警告がログに記録されます。</p> <p>処置 : WebLogic Server では、割り当てられる接続の許容最大数の設定を変更できます。</p> <p>J2EE 接続の管理については、使用している WebLogic Server バージョンの『WebLogic J2EE コネクタ アーキテクチャ』の「接続管理」を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p>
レポート タイプ	自動アクション : ASCII レポート
領域	コネクタ

メトリック B071_TransRollbackPct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0071
メトリック名	B071_TransRollbackPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	全トランザクションに対するロールバックの割合
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0071.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0071.1: % of transactions rolled back (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	<p>ロールバックされたトランザクションの割合が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: アプリケーション設計の問題かリソースの問題です。</p> <p>影響: ユーザー要求が正常に終了しません。</p> <p>処置: WebLogic 管理者は、必要なデータベース システムをチェックし、正常に機能することを確認してください。また、以下の構成可能なトランザクション属性をチェックしてください。</p> <p>TimeoutSeconds - システムがロールバックを強制する前に、トランザクションがアクティブでいられる時間</p> <p>AbandonTimeoutSeconds - トランザクション コーディネータが、トランザクションの完了を試み続ける最大時間</p> <p>BeforeCompletionIterationLimit - システムがロールバックを強制する前に処理される beforeCompletion コールバックの数</p> <p>管理者は、Administration Console から個々のトランザクションを監視することができます。統計情報以外に、以下の情報も表示できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B072_TrانResErrRbPct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0072
メトリック名	B072_TrانResErrRbPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	リソース エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0072.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0072.1: % of transactions rolled back due to resource error (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	<p>リソース エラーによってロールバックされたトランザクションの割合が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: リソース エラーのために、トランザクションが正常に完了していません。</p> <p>影響: 正常に終了するユーザー要求が減少します。</p> <p>処置: 管理者は、Administration Console から個々のトランザクションを監視することができます。統計情報以外に、以下の情報も表示できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B073_TransAppErrRbPct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0073
メトリック名	B073_TransAppErrRbPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	アプリケーション エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0073.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0073.1: % of transactions rolled back due to application error (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	<p>アプリケーション エラーによってロールバックされたトランザクションの割合が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: アプリケーション エラーのために、トランザクションが正常に完了していません。</p> <p>影響: 正常に終了するユーザー要求が減少します。</p> <p>処置: 管理者は、Administration Console から個々のトランザクションを監視することができます。統計情報以外に、以下の情報も表示できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ、登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B074_TrانTimErrRbPct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0074
メトリック名	B074_TrانTimErrRbPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	タイムアウト エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0074.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0074.1: % of transactions rolled back due to timeout error (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	<p>タイムアウト エラーによってロールバックされたトランザクションの割合が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: タイムアウト エラーのために、トランザクションが正常に完了していません。</p> <p>影響: 正常に終了するユーザー要求が減少します。</p> <p>処置: 管理者は、Administration Console から個々のトランザクションを監視することができます。統計情報以外に、以下の情報も表示できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ、登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B075_TransSysErrRbPct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0075
メトリック名	B075_TransSysErrRbPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	システム エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0075.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0075.1: % of transactions rolled back due to system error (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	<p>システム エラーによってロールバックされたトランザクションの割合が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: システム エラーのために、トランザクションが正常に完了していません。</p> <p>影響: 正常に終了するユーザー要求が減少します。</p> <p>処置: 管理者は、Administration Console から個々のトランザクションを監視することができます。統計情報以外に、以下の情報も表示できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ、登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B076_TrانThruRate

モニター テンプレート名	なし — レポートおよびグラフの作成に使用
メトリック名	B076_TrانThruRate
メトリック タイプ	グラフ作成、レポート作成
説明	1 秒あたりに処理されるトランザクションの数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	トランザクション

メトリック B077_TrانHeurCnt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0077
メトリック名	B077_TrانHeurCnt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	ヒューリスティックな決定を返すトランザクションの割合
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0075.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0077.1: % of transactions returning a heuristic decision (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	<p>ヒューリスティックな決定を返すトランザクションの割合が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: 分散トランザクションの完了段階で更新をコミットまたはロールバックする間に、リソースが一方的決定を行うときに、ヒューリスティックな終了 (またはヒューリスティックな決定) が発生しています。ヒューリスティックな完了の原因としては、ネットワーク障害やトランザクションのタイムアウトなどが考えられます。</p> <p>影響: ヒューリスティックな決定が発生すると、分散データが未確定の状態に残されることがあります。</p> <p>処置: ヒューリスティックな決定が発生すると、以下のヒューリスティックな結果例外のいずれかがスローされることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HeuristicRollback - トランザクションに関与するリソースの 1 つが、自身を準備してコミットの決定を待つことに同意しましたが、その作業を自主的にロールバックすることを決定しました。トランザクション マネージャがトランザクションをコミットすることを決定した場合、トランザクションの他のブランチはコミットされるため、リソースのヒューリスティックなロールバックの決定は妥当ではなく、一貫しない結果になる可能性があります。 • HeuristicCommit - トランザクションに関与するリソースの 1 つが、自身を準備してコミットの決定を待つことに同意しましたが、その作業を自主的にコミットすることを決定しました。トランザクション マネージャがトランザクションをロールバックすることを決定した場合、トランザクションの他のブランチはロールバックされるため、リソースのヒューリスティックなコミットの決定は妥当ではなく、一貫しない結果になる可能性があります。 • HeuristicMixed - トランザクション マネージャは、関与するリソースの一部がコミットし、他のリソースがロールバックしたため、トランザクションが混合した状態になったことを認識しています。通常は、関与するリソースが行ったヒューリスティックなロールバックまたはコミットの決定が原因です。

指示文 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> • HeuristicHazard - トランザクション マネージャは、関与するリソースの一部がコミットし、他のリソースがロールバックしたため、トランザクションが混合した状態になった可能性を認識しています。しかし、システムまたはリソースの障害があると、HeuristicMixed の確実な判定ができません。通常は、関与するリソースが行ったヒューリスティックなロールバックまたはコミットの決定が原因です。 • ヒューリスティックな完了が発生すると、サーバー ログにメッセージが記録されます。ヒューリスティックな完了を解決する方法については、ご使用のデータベース製品のドキュメントを参照してください。 <p>一部のリソース マネージャは、ヒューリスティックな完了のコンテキスト情報を保存します。この情報は、リソース マネージャのデータの非一貫性を解決するときに役に立ちます。WebLogic Console の [JTA] パネルで、ForgetHeuristics 属性 ([ヒューリスティックを無視]) を True に設定している場合、この情報はヒューリスティックな完了の後に削除されます。コンテキスト情報を保存するリソース マネージャを使用するときは、ForgetHeuristics 属性を False に設定してください。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ、登録アプリケーション : ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック

B078_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRateSum

モニター テンプレート名	なし — グラフの作成に使用
メトリック名	B078_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRateSum
メトリック タイプ	グラフ作成
説明	接続プール内で閉じていないコネクタ接続と、最大待ち時間を超えたコネクタ接続の1秒あたりの数
使用可能な WLS のバージョン	7.0、8.1、9
重要度: 条件	なし
収集間隔	5分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	コネクタ

メトリック

B278_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRate

モニター テンプレート名	WLSSPI_0278
メトリック名	B278_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRate
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成 (ログの記録のみ。レポートは作成されない)
説明	JCA 接続プールのリークした接続の割合
使用可能な WLS のバージョン	7.0、8.1、9
重要度 : 条件	注意域 : WLSSPI-0278.1、しきい値 100
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0278.1: Rate of leaked connections for the JCA connection pool (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>)
指示文	<p>新たにリークした接続の割合が、しきい値を超えました。</p> <p>原因 : アプリケーション コンポーネントが接続の使用後に閉じなかったことによる接続リーク。</p> <p>影響 : 接続が閉じられると、その接続は今後の接続要求に使用できます。アプリケーションが接続を閉じるのに失敗すると、接続プールの使用可能な接続を使い果たしてしまい、その後の接続要求が失敗することがあります。</p> <p>処置 : 不具合のあるアプリケーション コンポーネントを修正します。現在の接続の情報と、構成された最大値を超えた期間、アイドル状態にあった接続については、注釈レポートを参照してください。</p> <p>接続リークについては、使用している WebLogic Server バージョンの『WebLogic J2EE コネクタ アーキテクチャ』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p>
レポート タイプ	自動アクション : ASCII レポート
領域	コネクタ

メトリック B079_TrانCapacityUtil

モニター テンプレート名	WLSSPI_0079
メトリック名	B079_TrانCapacityUtil
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成、レポート作成
説明	トランザクション容量の使用率
使用可能な WLS のバージョン	7.0、8.1、9
重要度 : 条件	危険域 : WLSSPI-0079.1、しきい値 98 重要警戒域 : WLSSPI-0079.2、しきい値 95
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0079.x: % utilization of transaction capacity (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%)
指示文	同時に進行中のトランザクションの数 (サーバーで許容されているトランザクションの最大数に対する割合として) が、しきい値を超えました。
レポート タイプ	自動アクション : ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B080_ClsOutMesFailRt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0080
メトリック名	B080_ClsOutMesFailRt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	1分あたりにクラスタに再送されたマルチキャスト メッセージの数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0080.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0080.1: # of multicast messages to cluster that were resent (<\$VALUE>/min) too high (>=<\$THRESHOLD>/min)
指示文	<p>再送されたクラスタへのマルチキャスト メッセージの数が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: クラスタの構成かネットワークのトポロジが原因で発生した可能性があります。</p> <p>影響: マルチキャスト パケットの損失。</p> <p>処置: マルチキャストは、障害を検出したりクラスタ全体の JNDI ツリーを維持する重要な機能を制御するため、クラスタの構成や基本的なネットワーク トポロジがマルチキャスト通信と干渉しないことが重要です。WebLogic Server クラスタを構成または計画するときは、必ず以下の規則を考慮に入れてください。</p> <p>ほとんどの配備では、クラスタ化するサーバーを単一のサブネットに制限することで、マルチキャスト メッセージが確実に転送されるようになります。しかし、特殊なケースでは、Wide Area Network (WAN) 内の複数のサブネットに WebLogic Server クラスタを分散させたい場合があります。これは、クラスタ化された配備で冗長性を高める場合や、地理的により広い範囲にクラスタ化されたインスタンスを分散させる場合に適切です。</p>

指示文 (続き)	<p>WAN (または複数のサブネット) 上にクラスタを分散させる場合は、マルチキャスト メッセージがクラスタ内のすべてのサーバーに確実に転送されるように、ネットワーク トポロジを計画および構成しなければなりません。具体的には、ネットワークが以下の要件を満たしていなければなりません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ネットワークは、IP マルチキャスト パケット伝達を完全にサポートしていなければなりません。つまり、クラスタ化されたインスタンスにマルチキャストメッセージを伝達できるように、すべてのルータと他のトンネリング テクノロジを構成する必要があります。 2 ほとんどのマルチキャスト メッセージが 200 ~ 300 ミリ秒で最終的な送り先に届くように、ネットワークの遅延時間は十分に短くなければなりません。 3 マルチキャスト パケットが最終的な送り先に届く前にルーターがパケットを廃棄しないように、マルチキャストの Time-To-Live (TTL) の値が十分に高くなければなりません。 <p>注意 : WAN 上に WebLogic Server クラスタを分散させる場合は、上で説明したマルチキャスト要件に加えて、ネットワーク設備が必要になることもあります。たとえば、クライアント要求を最も効率的な方法でサーバーに向けさせる (不要なネットワーク ホップを避ける) ために、負荷分散機能を有するハードウェアの構成が必要になることがあります。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	クラスタ

メトリック B081_ClsInMesFailRt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0081
メトリック名	B081_ClsInMesFailRt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	サーバーで失われた、クラスタからの 1 分当たりのマルチキャスト メッセージ数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0081.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0081.1: # of multicast messages from cluster lost by server (<\$VALUE>/min) too high (>=<\$THRESHOLD>/min)
指示文	<p>クラスタからのマルチキャスト メッセージで、サーバーで失われたメッセージの数がしきい値を超えました。</p> <p>原因: クラスタの構成かネットワークのトポロジが原因で発生した可能性があります。</p> <p>影響: 重要なデータの損失。</p> <p>処置: マルチキャストは、障害を検出したりクラスタ全体の JNDI ツリーを維持する重要な機能を制御するため、クラスタの構成や基本的なネットワーク トポロジがマルチキャスト通信と干渉しないことが重要です。WebLogic Server クラスタを構成または計画するときは、必ず以下の規則を考慮に入れてください。</p> <p>ほとんどの配備では、クラスタ化するサーバーを単一のサブネットに制限することで、マルチキャスト メッセージが確実に転送されるようになります。しかし、特殊なケースでは、Wide Area Network (WAN) 内の複数のサブネットに WebLogic Server クラスタを分散させたい場合があります。これは、クラスタ化された配備で冗長性を高める場合や、地理的により広い範囲にクラスタ化されたインスタンスを分散させる場合に適切です。</p>

指示文 (続き)	<p>WAN (または複数のサブネット) 上にクラスタを分散させる場合は、マルチキャスト メッセージがクラスタ内のすべてのサーバーに確実に転送されるように、ネットワーク ポロジを計画および構成しなければなりません。具体的には、ネットワークが以下の要件を満たしていなければなりません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ネットワークは、IP マルチキャスト パケット伝達を完全にサポートしていなければなりません。つまり、クラスタ化されたインスタンスにマルチキャスト メッセージを伝達できるように、すべてのルータと他のトンネリング テクノロジを構成する必要があります。 2 ほとんどのマルチキャスト メッセージが 200 ～ 300 ミリ秒で最終的な送り先に届くように、ネットワークの遅延時間は十分に短くなければなりません。 3 マルチキャスト パケットが最終的な送り先に届く前にルーターがパケットを廃棄しないように、マルチキャストの Time-To-Live (TTL) の値が十分に高くなければなりません。 <p>注意 : WAN 上に WebLogic Server クラスタを分散させる場合は、上で説明したマルチキャスト要件に加えて、ネットワーク設備が必要になることもあります。たとえば、クライアント要求を最も効率的な方法でサーバーに向けさせる (不要なネットワーク ホップを避ける) ために、負荷分散機能を有するハードウェアの構成が必要になることがあります。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	クラスタ

メトリック B281_XMLCacheDiskSize

モニター テンプレート名	WLSSPI_0281
メトリック名	B281_XMLCacheDiskSize
メトリック タイプ	レポート作成 (ログの記録のみ。レポートは作成されない)
説明	XML パーサーでの外部参照が含まれるディスクにキャッシュされたエントリの総数
使用可能な WLS のバージョン	7.0、8.1、9
重要度 : 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	今後の使用のために予約済み
領域	XML キャッシュ

メトリック B282_XMLCacheMemorySize

モニター テンプレート名	WLSSPI_0282
メトリック名	B282_XMLCacheMemorySize
メトリック タイプ	レポート作成
説明	XML パーサーでの外部参照が含まれるメモリにキャッシュされたエントリの総数
使用可能な WLS のバージョン	7.0、8.1、9
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	今後の使用のために予約済み
領域	XML キャッシュ

メトリック B283_DeferredRequestsCnt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0283
メトリック名	B283_DeferredRequestsCnt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	保留状態の要求の数
使用可能な WLS のバージョン	9
重要度 : 条件	注意域 : WLSSPI-0283.1、しきい値 100
収集間隔	
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0283.1: Deferred Requests Count Too High
指示文	<p>このメトリックは、<code>max-threads-constraint</code> 制約に基づいて実行のためのスレッドを拒否された要求の数を監視します。<code>max-threads-constraint</code> は、使用できるワーク マネージャ コンポーネントの 1 つで、アプリケーションのデプロイメント記述子でコンポーネントの名前を参照することにより、アプリケーションのパフォーマンスを制御します。<code>max-threads-constraint</code> 制約は、制約対象の作業セットからの要求を実行する同時スレッドの数を制限します。デフォルトは制限なしです。制約の値に達すると、サーバーは、同時実行の数が制限値を下回るまで、このタイプの要求をスケジューリングしません。</p>
レポート タイプ	なし
領域	XML キャッシュ

メトリック B284_ReqWaitTimeForThread

モニター テンプレート名	WLSSPI_0284
メトリック名	B284_ReqWaitTimeForThread
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	スレッド 要求待ち時間
使用可能な WLS のバージョン	9
重要度 : 条件	注意域 : WLSSPI-0284.1、しきい値 1000
収集間隔	
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0284.1: Request Wait Time For A Thread Too High
指示文	このメトリックは、要求によるスレッドの待ち時間 (ミリ秒単位) を監視するために使用します。min_threads_constraint を満たす必要のある要求のみが対象となります。min-threads-constraint は、使用できるワーク マネージャ コンポーネントの 1 つで、アプリケーションのデプロイメント記述子でコンポーネントの名前を参照することにより、アプリケーションのパフォーマンスを制御します。この制約は、デッドロックを回避するために、サーバーから制約対象の要求に割り当てるスレッド数を保証します。デフォルトはゼロです。このタイプの制約は、主に、サーバー インスタンスがデッドロック状態に近い場合に効果があります。その場合、サービス クラスの要求がフェア シェアを上回ったばかりの場合でも、WebLogic Server により要求のスケジューリング設定が行われます。
レポート タイプ	なし
領域	XML キャッシュ

メトリック B085_InvLoginAttCnt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0085
メトリック名	B085_InvLoginAttCnt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	無効なログイン試行の回数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0、8.1、9
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0085.1、しきい値 2
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0085.1: # of invalid login attempts (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>)
指示文	<p>無効なログイン試行の回数が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: これは、試行されたセキュリティ侵害であるかもしれません。</p> <p>影響: セキュリティが侵害されると、WebLogic Server 環境のセキュリティが危険にさらされます。</p> <p>処置: 無効なログイン試行が頻繁に繰り返される場合は、weblogic.security.audit パッケージを実装してください。このパッケージを使用すると、監査記録を調べて、セキュリティ侵害があったかどうかや、セキュリティ侵害が試みられたかどうかを判定することができます。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	セキュリティ

メトリック B285_PendingReqCount

モニター テンプレート名	WLSSPI_0285
メトリック名	B285_PendingReqCount
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	保留状態の要求の数
使用可能な WLS のバージョン	9
重要度 : 条件	注意域 : WLSSPI-0285.1、しきい値 100
収集間隔	
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0285.1: Number of Pending Requests Too High
指示文	このメトリックは、使用可能なスレッドを待機して保留状態にある要求の数を監視します。
レポート タイプ	なし
領域	XML キャッシュ

メトリック B286_PendingReqPct

モニター テンプレート名	WLSSPI_0286
メトリック名	B286_PendingReqPct
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	保留状態の要求の割合
使用可能な WLS のバージョン	9
重要度 : 条件	重要警戒域 : WLSSPI-0286.1、しきい値 98
収集間隔	
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0286.1: Percentage of Pending Requests Too High
指示文	このメトリックは、使用可能なスレッドを待機して保留状態にある要求の割合を監視します。
レポート タイプ	なし
領域	XML キャッシュ

メトリック B287_ReqMaxWaitTime

モニター テンプレート名	WLSSPI_0287
メトリック名	B287_ReqMaxWaitTime
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	スレッド 要求最長待ち時間
使用可能な WLS のバージョン	9
重要度 : 条件	注意域 : WLSSPI-0287.1、しきい値 1000
収集間隔	
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0287.1: Maximum time a request had to wait for thread too high
指示文	このメトリックは、要求によるスレッドの最長待ち時間を監視するために使用します。
レポート タイプ	なし
領域	XML キャッシュ

メトリック B288_StandbyThreadCount

モニター テンプレート名	WLSSPI_0288
メトリック名	B288_StandbyThreadCount
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	スタンバイ プールのスレッド数
使用可能な WLS のバージョン	9
重要度 : 条件	注意域 : WLSSPI-0288.1、しきい値 10
収集間隔	
OVO のしきい値	最小
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0288.1: Number of threads in the standby pool too low
指示文	<p>このメトリックは、スタンバイ プールのスレッド数を監視するために使用します。現在の作業負荷の処理に必要な余分なスレッドはスタンバイ スレッドとみなされ、スタンバイ プールに追加されます。必要なスレッド数が増えると、これらのスレッドはアクティブになります。このスレッド数の値は、パフォーマンス基準を満たす許容可能な範囲内であることが必要です。</p>
レポート タイプ	なし
領域	XML キャッシュ

メトリック B090_TimeSerExcepCnt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0090
メトリック名	B090_TimeSerExcepCnt
メトリック タイプ	警告通知
説明	すべてのトリガーに対してスローされた例外の数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0090.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0090.1: # of exceptions thrown for all triggers (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>)
指示文	<p>すべてのトリガーについてスローされた例外の数が、しきい値を超えました。</p> <p>原因: スケジュール設定されたアクションの間に例外がスローされました。</p> <p>影響: 例外をスローするトリガーは再スケジュールされません。</p> <p>処置: 例外の後でトリガーを再スケジュールする場合は、アプリケーションが例外をキャッチし、再度トリガーをスケジュールする必要があります。</p>
レポート タイプ	ASCII レポート
領域	タイム サービス

メトリック B091_TimeSerThruRt

モニター テンプレート名	WLSSPI_0091
メトリック名	B091_TimeSerThruRt
メトリック タイプ	グラフ作成
説明	1 秒あたりに実行されるトリガーの数
使用可能な WLS のバージョン	6.1、7.0
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	タイム サービス

メトリック B092_ExQueThroughput

モニター テンプレート名	WLSSPI_0092
メトリック名	B092_ExQueThroughput
メトリック タイプ	グラフ作成、警告通知
説明	実行キューで1秒あたりに処理される要求の平均数
使用可能な WLS のバージョン	9
重要度: 条件	なし
収集間隔	
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	タイム サービス

2 WLS-SPI のログ ファイルと構成ファイルのテンプレート

この項では、ログ記録された情報と WebLogic Server および WLS-SPI ファイルに行われた変更を監視する、Smart Plug-in for BEA WebLogic Server (WLS-SPI) テンプレートについて説明します。これらのテンプレートは、WLS-SPI 内部のエラー メッセージとともに、WebLogic Server XML 構成ファイルに行われた変更を検出します。

WebLogic 構成ファイル

説明	WebLogic Xml 構成ファイル内の変更を検出します。
重要度	注意域
メッセージグループ	WebLogic
指示文	WebLogic Server のプロパティ ファイルのいずれかが保存されました。おそらく、ファイルの内容が変更されました。更新された構成ファイルの名前が、この OVO メッセージの [オブジェクト] フィールドに表示されます。 原因 : WebLogic Server の再構成。 影響 : WebLogic Server を起動すると、新しい構成ファイルが使用されます。変更内容に誤りがあると、問題が発生する可能性があります。 処置 : 更新されたプロパティ ファイルを調べます。構成ファイルへの変更が正しい場合は、このメッセージを受諾できます。

WLSSPI エラー ログ

説明	WLS-SPI エラー ログを監視して、重大なエラーを検出し、それをメッセージ ブラウザに送信します。
重要度	危険域
メッセージグループ	WLSSPI
指示文	各エラーごとに指示文があります。また、エラーは WASSPI-1 ~ WASSPI-226 まであります。プレフィックス WASSPI が付く各エラーの詳細な指示文については、『HP OpenView Smart Plug-in for BEA WebLogic Server 設定ガイド』の第 6 章を参照してください。各エラーの指示文については、第 6 章で説明します。

WebLogic ログ テンプレート

説明	WebLogic Server ログ ファイル内の重大なエラーと警告を検出します。
重要度	危険域 注意域
メッセージ グループ	WebLogic
指示文	<p>原因 : WebLogic Server ログ ファイルで、"Emergency" または "Critical" のインジケータが付くメッセージが検出されました。</p> <p>または</p> <p>WebLogic Server ログ ファイルで、"Notice"、"Error"、または "Alert" のインジケータが付くメッセージが検出されました。</p> <p>処置 : エラーを調査し、WebLogic Server のマニュアルまたはオンライン ヘルプを使用して、正確な原因と対応処置を判断します。</p>

索引

B

- B001_ServerStatus, 14
- B002_ServerStatusRep, 15
- B005_JVMMemUtilPct, 16
- B010_ExQueThruRate, 18
- B011_ExQThrdUtilPct, 19
- B012_ExQueWaitCnt, 21
- B013_SocketTrafficRt, 22
- B014_ActiveSocketCnt, 23
- B015_SrvrRestartsPct, 24
- B025_EJBFreePoolWtRt, 25
- B026_EJBTimeoutRt, 28
- B035_EJBTranThruRt, 30
- B036_EJBTranRbRt, 31
- B061_JDBCConPIWtCnt, 45
- B063_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRtSum, 47
- B070_TransAveTime, 51
- B071_TransRollbackPct, 53
- B072_TransResErrRbPct, 54
- B073_TransAppErrRbPct, 55
- B074_TransTimErrRbPct, 56
- B075_TransSysErrRbPct, 57
- B076_TransThruRate, 58
- B077_TransHeurCnt, 59
- B078_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRateSum, 61
- B079_TransCapacityUtil, 63
- B080_ClsOutMesFailRt, 64
- B081_ClsInMesFailRt, 66
- B085_InvLoginAttCnt, 72
- B090_TimeSerExcepCnt, 77
- B091_TimeSerThruRt, 78
- B092_ExQueThroughput, 79
- B225_EJBFreePoolWaitRate, 26
- B226_EJBTimeoutRate, 29
- B238_EJBCacheHitPct, 32
- B240_ServletAveExecTime, 33
- B241_ServletTimeCnt, 34
- B242_ServletReqRate, 35
- B245_WebAppSessionCnt, 36
- B246_WebAppHitRt, 37
- B251_JMSUtilByMessagePct, 38
- B252_JMSUtilByBytePct, 39
- B253_JMSThreshByMessagePct, 40
- B254_JMSThreshByBytePct, 41
- B255_JMSServerThruMessageRt, 42
- B256_JMSServerThruByteRt, 43
- B260_JDBCConnectionPoolUtil, 44
- B262_JDBCConnectionPoolThruRt, 46
- B263_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRt, 48
- B264_JDBCConnectionPoolFailures, 49
- B265_JDBCConnectionPoolAvgConnectionDelayTime, 50
- B270_ConnectorConnectionPoolUtil, 52
- B278_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRate, 62
- B281_XMLCacheDiskSize, 68
- B282_XMLCacheMemorySize, 69
- B283_DeferredRequestsCnt, 70
- B284_ReqWaitTimeForThread, 71
- B285_PendingReqCount, 73
- B286_PendingReqPct, 74
- B287_ReqMaxWaitTime, 75
- B288_StandbyThreadCount, 76

E

EJB

- B025_EJBFreePoolWtRt, 25
- B026_EJBTimeoutRt, 28
- B035_EJBTranThruRt, 30
- B036_EJBTranRbRt, 31
- B225_EJBFreePoolWaitRate, 26
- B226_EJBTimeoutRate, 29
- B238_EJBCacheHitPct, 32
- キャッシュの割合, 32

EJB Bean

- 待機中にタイムアウトになったクライアント, 28
- 待機中にタイムアウトになったクライアント (ドリルダウン), 29
- フリー プールから使用できない, 25
- フリー プールから使用できない (ドリルダウン), 26

- EJB トランザクション, 30
 - ロールバックされた, 31

J

Java Message Service

- JMS 参照

JCA 接続

- 使用率, 52

JDBC

- B061_JDBCConPIWtCnt, 45
- B063_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRtSum, 47
- B260_JDBCConnectionPoolUtil, 44
- B262_JDBCConnectionPoolThruRt, 46
- B263_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRt, 48
- B264_JDBCConnectionPoolFailures, 49
- B265_JDBCConnectionPoolAvgConnectionDelayTime, 50
- 接続の遅延, 50
- 接続プール内で使用された接続数, 44
- 接続プール内で閉じられていない接続の数, 47
- 接続プール内で待ち時間を超えている接続の数, 47
- 接続プール内のリークした接続の数, 48
- 接続プールによって処理されるクライアントの数, 46
- 接続プールの障害, 49
- 接続プールの接続を待機しているクライアントの数, 45

JMS

- B251_JMSUtilByMessagePct, 38
- B252_JMSUtilByBytePct, 39
- B253_JMSThreshByMessagePct, 40
- B254_JMSThreshByBytePct, 41
- B255_JMSServerThruMessageRt, 42
- B256_JMSServerThruByteRt, 43
- キュー内のバイト数, 39
- キュー内のメッセージ数, 38
- バイトしきい値条件, 41
- メッセージしきい値条件, 40
- 渡されたバイト数, 43
- 渡されたメッセージ数, 42

JVM

- B005_JVMMemUtilPct, 16

JVM ヒープ空間

- 使用されている割合, 16

O

- OVO の最小/最大しきい値, 12
- OVO のしきい値タイプ, 12
- OVO のデフォルトのしきい値, 12

W

WebLogic Server

- ログ ファイルのエラーと警告, 82

WebLogic ログ テンプレート, 82

WebLogic 構成ファイル, 81

Web アプリケーション

- B245_WebAppSessionCnt, 36
- B246_WebAppHitRt, 37
- 1 秒あたりに開かれているセッション, 37
- 開かれているセッション, 36

WLSSPI エラー ログ, 81

X

XML キャッシュ

- B092_ExQueThroughput, 79
- B281_XMLCacheDiskSize, 68
- B282_XMLCacheMemorySize, 69
- B283_DeferredRequestsCnt, 70
- B284_ReqWaitTimeForThread, 71
- B285_PendingReqCount, 73
- B286_PendingReqPct, 74
- B287_ReqMaxWaitTime, 75
- B288_StandbyThreadCount, 76
- スタンバイ プールのスレッド数, 76
- スレッド要求最長待ち時間, 75
- スレッド要求待ち時間, 71
- パーサーの外部参照があるディスク上のエン트리, 68
- パーサーの外部参照があるメモリ内のエン트리, 69
- 保留状態の要求, 70
- 保留状態の要求の数, 73
- 保留状態の要求の割合, 74

XML パーサー

- ディスク上の外部参照, 68
- メモリ内の外部参照, 69

え

エラー ログ
監視, 81

か

可用性
B001_ServerStatus, 14
B002_ServerStatusRep, 15

き

キャッシュ
EJB の割合, 32
キュー内のバイト数
JMS, 39
キュー内のメッセージ数
JMS, 38

く

クライアントのタイムアウト
EJB Bean の待機中, 28
EJB Bean の待機中 (ドリルダウン), 29
クライアント要求
処理すべき数, 21
クラスタ
B080_ClsOutMesFailRt, 64
B081_ClsInMesFailRt, 66
マルチキャスト メッセージ、再送, 64
マルチキャスト メッセージ、消失, 66

こ

構成ファイル
変更の検出, 81
コネクタ
B078_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRateSum,
61
B270_ConnectorConnectionPoolUtil, 52
B278_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRate, 62
使用された JCA 接続, 52
閉じられていない接続, 61
待ち時間を超える接続, 61
リークした接続の割合, 62
コミット時間
トランザクション, 51

さ

サーバーのステータス, 14
サーバーのステータス、レポート作成, 15

サーブレット
B240_ServletAveExecTime, 33
B241_ServletTimeCnt, 34
B242_ServletReqRate, 35
実行時間, 33
使用された時間, 34
要求, 35

し

しきい値条件
JMS バイト, 41
JMS メッセージ, 40
指示文, 13
実行キュー
使用中のスレッドの割合, 19
処理される要求の数, 18
実行されたトリガー, 78
実行時間
サーブレット, 33
収集間隔, 12
重要度, 12
使用可能な WLS のバージョン, 12
使用中のスレッド
実行キューの割合, 19
使用率
トランザクションの容量, 63

す

スタンバイプール
スレッド数, 76
スローされた例外, 77

せ

セキュリティ
B085_InvLoginAttCnt, 72
無効なログイン試行, 72

接続

- JCA 接続プールからのリーク, 62
- JDBC 接続プールの障害, 49
- JDBC 接続プール、使用率, 44
- JDBC 接続プール、処理されるクライアントの数, 46
- JDBC 接続プール、待機中のクライアント数, 45
- JDBC 接続プール、遅延, 50
- JDBC 接続プール、閉じられていない, 47
- JDBC 接続プール、待ち時間超過, 47
- JDBC 接続プール、リーク, 48
- コレクタ、閉じられていない, 61
- コレクタ、待ち時間超過, 61

接続プール

- JCA、リーク, 62
- JDBC 接続、障害, 49
- JDBC 接続、使用された, 44
- JDBC 接続、処理されるクライアントの数, 46
- JDBC 接続、待機中のクライアント数, 45
- JDBC 接続、遅延, 50
- JDBC 接続、閉じられていない, 47
- JDBC 接続、待ち時間超過, 47
- JDBC 接続、リーク, 48
- 使用された JCA 接続, 52

説明, 12

そ

ソケット接続

- 1 秒あたりに開かれている数, 22
- 現在開かれている数, 23

た

タイム サービス

- B090_TimeSerExcepCnt, 77
- B091_TimeSerThruRt, 78
- 実行されたトリガー, 78
- スローされた例外, 77

と

トランザクション

- B070_TransAveTime, 51
- B071_TransRollbackPct, 53
- B072_TransResErrRbPct, 54
- B073_TransAppErrRbPct, 55
- B074_TransTimErrRbPct, 56
- B075_TransSysErrRbPct, 57
- B076_TransThruRate, 58
- B077_TransHeurCnt, 59
- B079_TransCapacityUtil, 63
- EJB, 30
- 返されたヒューリスティックな決定, 59
- コミット時間, 51
- 処理された数, 58
- 容量使用率, 63
- ロールバックされた EJB, 31
- ロールバック、アプリケーション エラー, 55
- ロールバック、合計, 53
- ロールバック、システム エラー, 57
- ロールバック、タイムアウト エラー, 56
- ロールバック、リソース エラー, 54

は

パフォーマンス

- B010_ExQueThruRate, 18
- B011_ExQThrdUtilPct, 19
- B012_ExQueWaitCnt, 21
- B013_SocketTrafficRt, 22
- B014_ActiveSocketCnt, 23
- B015_SrvrRestartsPct, 24

ひ

ヒープ空間

- JVM で使用されている割合, 16

開かれているセッション

- 1 秒あたりの Web アプリケーション, 37
- Web アプリケーション, 36

ふ

フリー プール

- 使用できない EJB Bean, 25
- 使用できない EJB Bean (ドリルダウン), 26

ま

マルチキャスト メッセージ

- クラスタ、再送, 64
- クラスタ、消失, 66

め

メッセージグループ, 13

メッセージテキスト, 13

メトリック仕様
説明, 12

メトリックタイプ, 12

メトリックの概要

OVO の最小 / 最大しきい値, 12

OVO のしきい値タイプ, 12

OVO のデフォルトのしきい値, 12

指示文, 13

収集間隔, 12

重要度, 12

使用可能な WLS のバージョン, 12

説明, 12

メッセージグループ, 13

メッセージテキスト, 13

メトリックタイプ, 12

メトリック名, 12

モニター テンプレート名, 12

領域, 13

列の説明, 7

レポートタイプ, 13

メトリック名, 12

も

モニター テンプレート名, 12

ゆ

許される再起動, 24

よ

要求

サブレット, 35

最長待ち時間, 75

実行キューで処理される数, 18

スレッド要求待ち時間, 71

保留状態の要求の数, 73

保留状態の要求の割合, 74

り

領域, 13

れ

スレッド

要求待ち時間, 71

レポートタイプ, 13

ろ

ログイン

無効な試行, 72

